



インバウンドの成長、さらに加速

足元のインバウンド需要の伸びが昨年をさらに上回る勢いです。急増する需要が観光ビジネスにどのようなインパクトを与えるか、目の離せない状況が続きます。

2014年におけるインバウンドの急成長には驚かされましたが、2015年はそれを上回るような状況となるかもしれません。円安がもう一段階進みそうな観測が流れているだけでなく、中国本土の市場に起きている変化が、強力な加速要素になっているとみられます。

図表1は2014年後半以降における主要デスティネーションへの中国人旅行者数の推移をまとめたものです。この表で注目いただきたいのが今年の3、4月における、香港、マカオ、台湾における旅行者数の減少です。香港では本土からの買物目的の旅行者が増え過ぎたことから一部で旅行者数を抑制する措置が取られつつあり、台湾でも日あたりの団体旅行者の入国が抑制されたことが主な要因とみられます。また香港への中国人旅行者数が前年を大きく割り込むとの見通しが調査会社のGfKからリリースされていることも注目されます。中国という巨大市場を相手にするデスティネーションとして、日本にとっても他人事では

はないといえるでしょう。

ベトナムやマレーシア方面など、もともと旅行者数が減っている方面があるところに、メガデスティネーションである香港、マカオ、台湾などを避ける動きが出て来たことと、代替需要が近隣のデスティネーションに向かうのは予測できることです。直近の4月の数字をみると、韓国への旅行者数前年比は20.6%で前月からほぼ横ばいですが、日本は113.0%と3月を大きく上回る伸び率を記録しており、旅行者の増減数でも上回っています。中国から韓国への旅行者数は年間600万人と日本の倍の需要規模ですが、すでに韓国の訪問経験のある人々は次の旅行では別の旅行先を選択するというパターンもありうると思われ、現実において、日本への旅行者の集中が一定程度の可能性があるのではないかと思います。

図表2は訪日中国人旅行者数の推移を示したのですが、2014年に年間200万人を超え、2015年に入ってからに勢いが増して、この4月には、過去12か月間の通算で300万人の万台を超えました。前年同月比は、13年10月以来、50%増(2倍ということ)の間で伸び続けており、勢いが衰える兆しは見えませんが、

黒須宏志

旅行市場動向のリサーチャーとして講演、寄稿などで活躍中。(株)JTB総研 執行役員・主席研究員。1964年生まれ。

因みに、この4月における過去12か月間の訪日外国人旅行者数は1,467万人、日本在住者を含めた正規入国外国人数は1,540万人に達しています。同時期の海外旅行者数は1,660万人。小職は今年の正月のトラベルジャーナルさんへの寄稿記事でアウトバウンドとインバウンドの逆転は2017年にも起こりうると思ってきました。

図表1 主要デスティネーションにおける中国人旅行者数の推移

	2014年		2015年		YTD2015		
	7~12月	1~2月	3月	4月	同期比	増減数	対象月
日本	80.1%	99.2%	83.7%	113.0%	99%	66	1~4月
韓国	33.4%	46.2%	21.6%	20.6%	31%	49	1~4月
香港	15.9%	15.8%	-10.0%	*	8%	88	1~3月
マカオ	13.5%	4.8%	-17.6%	-6.4%	-4%	-26	1~4月
台湾	38.9%	26.7%	-22.6%	-4.9%	4%	5	1~4月
シンガポール	-17.4%	*	*	*	*	*	*
ベトナム	-24.7%	-40.3%	-80.8%	-13.7%	-43%	-34	1~4月
マレーシア	-10.0%	*	*	*	*	*	*
タイ	19.8%	*	*	*	57%	20	1月
バリ島	60.6%	33.0%	*	*	33%	4	1~2月
サイパン	49.6%	18.2%	31.5%	*	22%	1	1~3月
グアム	68.8%	50.0%	*	*	50%	0	1~2月
ニュージーランド	23.3%	39.3%	33.0%	26.9%	35%	4	1~4月

データ：各国統計局、観光局等

注1) YTD…Year To Date / 1月から最新月までのデータの意

注2) *はデータが公表されていない

図表2 訪日中国人旅行者数の推移



データ：JNTO

だが、正規入国者数に関しては、2015年度中にも逆転が起こりうる状況になってきたといえるでしょう。このような急激な需要の変化が国内・海外を問わず、われわれのビジネスの現場に大きな影響を及ぼしつつあることは改めて申すまでもありません。すでにこのコラムで仕入や国内旅行需要などとの関連を取り上げさせていただいておりましたが、2015年は、これまで書いてきたすべての想定と予想をひっくり返すような年になるかもしれません。